

聖火ランナーと振り返る、東京2020パラリンピック。

令和3年
(2021年)10月15日

No.1474



発行 | 渋谷区
編集 | 広報コミュニケーション課
所在地 | 〒150-8010 宇田川町1-1
電話 | 03-3463-1211 (代表)



@city_shibuya



@shibuya.city



@city_shibuya_official



@shibuyacity

区SNSは
こちら



左から、山田一成さん、神前はるかさん、井上順さん

※インタビュー時は、マスクを着用、換気、社会的距離の確保を徹底し、感染対策を行いました。撮影時のみ、マスクを外して撮影しました。

東京2020から未来へ。ちがいが輝くまちづくりを。

- | | | | | | | | |
|-------|---------------------------------------|-------|--------------------------|-------|------------|--------|---------------------------------------|
| 2 3 | パラリンピック聖火リレーで感じた
絆、多様性、パラスポーツの可能性。 | 4 5 | 新型コロナワクチンに
関するお知らせ ほか | 6 7 | 敬老祝品の贈呈 ほか | 8 15 | 第44回渋谷区くみの広場
ふるさと渋谷フェスティバルオンライン ほか |
|-------|---------------------------------------|-------|--------------------------|-------|------------|--------|---------------------------------------|

不要不急の外出自粛と感染防止対策の徹底をお願いします。

掲載情報は新型コロナウイルス感染症の影響により、変更となる場合があります。

パラリンピック聖火リレーで感じた絆、多様性、パラスポーツの可能性。

8月24日に代々木公園で行われた、渋谷区の東京2020パラリンピック聖火リレー点火セレモニー。パラリンピック聖火ランナーの皆さんに、参加の感想や次世代への思いを伺いました。



皆さんの目の輝きから喜びが伝わり、聖火を通して皆さんのつながりを感じました。

いのうえ じゅん
歌手・俳優・渋谷区名誉区民 井上 順平さん

昭和22年、渋谷区出身。「ザ・スパイダース」で、堺正章さんと共にボーカルを担当。多くのヒットソングを生み、音楽番組、バラエティー、ドラマ・映画と幅広く活動。平成23年に渋谷区くみんの広場実行委員長に就任し、令和2年には渋谷区名誉区民に顕彰された。

熱いまなざしと温かな拍手に包まれた点火セレモニー

皆さんの自己紹介をお願いします。

井上: 井上順です。僕は生まれも育ちも富ヶ谷で、渋谷の街には懐かしい思い出がたくさんあります。微力ながらも地域のお役に立てればと、区のイベントをいろいろとお手伝いしており、パラリンピック聖火ランナーも喜んでお引き受けさせていただきました。

神前: 紙芝居師の「かみはる」こと、神前はるかです。私は生まれつき股関節に障がいがあり、現在は2本のつえを使いながら生活しています。平成28年から師匠のヤムさん(山田さん)と共に、渋谷区の子どもたちに紙芝居でパラスポーツの魅力を伝える活動を行ってきました。聖火ランナーに決まった時は、飛び上がりそうなほどうれしかったです。

山田: 紙芝居師「ヤムちゃん」こと、山田一成です。お笑い芸人の活動を経て、平成21年から「渋谷画劇団」に所属し、紙芝居師として活動を行っています。パラリンピック聖火リレーでは、「かみはる」の伴走者を務めさせていただきました。

パラリンピック聖火ランナーに決まってから本番を迎えるまでに準備されたことはありますか？

神前: すぐにダイエットを始めました(笑)。障がいがあるため、できる運動は限られているのですが、1日1時間半のストレッチを2か月頑張っただけで、4キロの減量に成功しました！また、聖火リレーでは左手につえ、右手にトーチを持って走らなければならないので、ヤムさんと本番直前まで何度も練習しました。

井上: 素晴らしい努力！僕も見習わないとなあ。

点火セレモニーでは、初めて出会う2~3人が1組のチームとなってパラリンピック聖火リレーを行いました。いかがでしたか？

井上: 皆さん気さくに話しかけてくれて、すぐに打ち解けました。僕は左耳に難聴を抱えているのですが、チームの皆さんがフォローしてくれてありがたかったです。撮影用の記念ポーズを決める時も、

僕がよくテレビで使うポーズを「やりましょう」と提案してくれて、うれしかったですね。点火セレモニーは関係者のみで、無観客で行われましたが、そこにいる皆さんの目が輝いていて、喜びが伝わってきました。開会式で国立競技場の聖火台に火が灯った瞬間は「僕たちの聖火だ！」という実感が湧きましたし、たくさんの方とのつながりを感じられて、とてもいい思い出になりました。

神前: 自分の持つトーチに火が灯った瞬間は、怖さを感じるほどの緊張感でした。うまく走れるか不安でしたが、隣で併走するヤムさんが「大丈夫、大丈夫」と声を掛け続けてくれて心強かったです。チームの皆さんの思いやりもうれしかったですし、関係者の方々の温かい拍手も力になり、無事に大役を果たすことができました。この感動は一生に一度なので、参加できて本当に光栄です。

選手・出演者の明るい笑顔と一生懸命さに感動

東京2020パラリンピックで印象に残っている競技やシーンはありますか？

山田: 競技では車いすラグビーです。渋谷区が支援し続けてきた競技ですし、僕も紙芝居口演で選手の皆さんと交流があったので、応援にも熱が入りましたね。準決勝で負けた時の池崎大輔選手の表情から悔しさが痛いほど伝わりましたが、翌日の3位決定戦で見事勝利して銅メダルを獲得した時は、鳥肌が立ちました！負けてもすぐに気持ちを切り替える強さは、さすがアスリートだなと感じました。

神前: 私も選手たちの精神力、身体能力には圧倒されました。おそらく多くの方が「パラスポーツ」ではなく「スポーツ」として熱中していたと思います。今後は、パラスポーツが「障がい」という枠を超えて、さらに新しい方向に向かっていくんじゃないかなと感じました。

井上: パラ競技のスピード感、ぶつかり合いの激しさには驚きましたね。喜怒哀楽いろいろなドラマが見られて、大会中は感動の連続でした。何より心に深く刻まれたのは、選手たちの明るい笑顔と一生懸命さ。全てのアスリートに金メダルをあげたい気持ちでした。

神前: 閉会式のパフォーマンスも素晴らしかったです。特に「ミライトワ」と「ソメイティ」が街をつくるシーンは、みんなの個性が繋がっていくのが感じられて、目頭が熱くなりました。この感動が日本から世界に向けて発信されたことも感慨深かったです。

井上: 閉会式のフィナーレを飾った曲「What a Wonderful World (この素晴らしき世界)」も心に響きました。演奏されたピアニストの西川悟平さんは僕の友人なのですが、出演すると知らなかったのが驚きました。「僕も一緒に歌いたかったなあ」なんて思いましたが(笑)、自分のことのようにうれしかったです。

渋谷の多様性と文化を、街のみんなで育てる

今大会を通して、皆さんが未来へつなげたい思いはありますか？

神前: 私は紙芝居師になるまで、障がいを理由にいろいろなことを諦めてきました。でも、ヤムさんの「障がいは個性だよ」という言葉に勇気付けられて、今があります。障がいを個性と捉えることに賛否ある

かもしれませんが、私はこれからは「杖の紙芝居師・かみはる」として胸を張っていきたいですし、障がいがある方たちには「こんなこともできるんだよ」と前向きな姿勢を伝えていきたいです。

山田: 僕たちは「誰もが輝ける社会」をモットーに紙芝居口演を行っていますが、ここ数年で子どもたちの視線が変わってきているのを感じます。障がいに対して先入観がなく、「パラスポーツって楽しそう」といって、それぞれのちがいを自然に受け入れている気がします。大人と子どもが同じ意識を持って、一緒に多様性のある社会をつくっていききたいですね。

井上: いつかオリンピックとパラリンピックが同時開催できる日が来たらいいですね。実現までのハードルは高いと思いますが、障がいの有無にかかわらず、みんなでいい汗をかいて、笑顔でスポーツができたら、すてきじゃないですか。1964年と2020年、2度のオリンピックを東京で体験した僕としては、そんな時代がやってきたらうれしいです。

最後に、区民の皆さんにメッセージをお願いします。


神前: 渋谷区は車いすラグビー、パラバドミントン、パラ卓球、ボッチャ、パラ陸上競技の5つのパラスポーツ競技団体と、相互協力に関する協定を結んでいます。パラリンピック競技の普及活動も、ほかの自治体に先駆けてスタートしました。「ちがいを ちからに変える街。」として、日本の最先端をいく渋谷で暮らしながら、私も新しいことにどんどん挑戦していきたいと思っています。

山田: 区内で、パラリンピックPR紙芝居を始めた当初は、ほとんどの子が「パラリンピックって、なに？」という感じでした(笑)。でも、最近では3歳児が「義足」という言葉を知っていたり、小学生が学校の授業で習った競技ルールを教えてくださいたりすることもあるほど。さすが、パラスポーツを推進する渋谷の子どもたちだなと頼もしく感じます。これからも、紙芝居を通して子どもたちにパラスポーツの魅力や、多様性を楽しく伝えていきたいです。

井上: 今回のパラリンピックでも改めて感じましたが、渋谷区は、いろいろな個性が混ざり合って、新しいカルチャーを生み出し続ける街なんですよ。神前さんと山田さんのように、「生きた言葉と絵」で、子どもたちに多様性を伝える活動も素晴らしいと思います。一人ひとりが地元愛を胸に、みんなで渋谷区を育てていけたらいいですね。

東京1964オリンピックの思い出を伝える
オリンピック記念宿舎

10月15日号の表紙を飾ったオリンピック記念宿舎は、東京1964オリンピック(第18回オリンピック競技大会)で、オランダ代表選手団の選手宿舎として利用された建物。当時、各国の選手が利用した宿舎の一つがこの建物で、東京1964オリンピック開催時の選手村の跡地につくられた代々木公園の一角に位置している。現在は、東京1964オリンピックを記念して保存されている。




本番は緊張しましたが、チームの皆さんの協力や拍手の応援が力になり、無事に大役を果たせました。

かみはる かおり
紙芝居師 神前はるかさん

平成元年、千葉県出身。渋谷区在住の紙芝居師。生まれつき股関節に障がいがある。平成23年より紙芝居師として活動を開始。紙芝居口演のほか、テレビやラジオ出演などマルチに活動中。平成28年より渋谷区主催のパラリンピックPR紙芝居を実施してきた。



これからは紙芝居を通して未来を担う子どもたちにパラスポーツの魅力や多様性を伝えていきたいです。

やまだ かずなり
紙芝居師 山田一成さん

昭和54年、沖縄県出身。紙芝居師。お笑い芸人の活動を経て、平成21年から紙芝居師として国内外で紙芝居口演を行う。平成28年より渋谷区主催のパラリンピックPR紙芝居を継続的に実施。パラリンピック聖火リレーでは神前はるかさんの伴走者として参加した。



▲紙芝居を口演する山田さんと神前さん

井上さん、神前さん、山田さんへのインタビューは10月19・26日に「渋谷の星」で放送します。

しづや区 × 渋谷

バックナンバーはこちら



広報課コミュニケーション課広報係 (03-3463-1287/03-5458-4920)

渋谷区の番組を放送中です ラジオしづや区ニュース 月~木 11:00/16:00/21:50 (10分間) 「しづや区ニュース」の情報を発信します。	渋谷いきいき倶楽部 月~金 13:00/16:30 (30分間) シニアの皆さんを応援する番組です。	渋谷の星 火 11:15 (45分間) 渋谷区で活躍する人たちが登場します。	渋谷のくらし 金 16:00 (30分間) 地域の催しなどの様子を伝えます。	ラジオしづや区ニュース(区長の部屋) 金 11:00/17:00/19:50 (10分間) 長谷部区長が出演します。 (ラジオしづや区ニュースの内容になる場合があります)
--	---	---	---	---

しづや区 × 渋谷 とは？

「しづや区ニュース」では毎月、「渋谷のラジオ」と連動したページを掲載。「しづや区ニュース」と「渋谷のラジオ」が連携して、人と人のつながりが広がる紙面を届けています。

渋谷

周波数：87.6MHz FM
☆公式アプリ(iOS・Android)でも聴取可能

所在地 | 渋谷3-22-11 サンクスプライムビル1階 TEL | 03-6712-6876
FAX | 03-5778-9620 E-MAIL | info@shiburadi.com HP | shiburadi.com/